

番外編 Jカフェ

注目！ 双方向的 国際性を
高めるチャンス！！



J A U Wの会員のネットワークの広さは驚くほど。
今回は、「ベナン共和国」から一時帰国中の
倉科茉季さん（鷺見会長の後輩）から
未知の国の話をお聞きします。



30歳！夢を叶えにベナンへ ～滞在4ヶ月で私が見たもの、聞いたこと～

ナイジェリアの隣の小国ベナン共和国は、おだやかで暮らしやすい国だそうです。ただ、就学状況は、まだまだ貧困による課題を抱え改善が必要とのこと。そんな国で、倉科さんは情熱をかたむけて英語を教えています。一月いっぱい東京にご滞在とのことで、この千載一遇のチャンスに、未知の国「ベナン」の生活のこと、国の状況、お仕事のことなど、お話を伺うことにしました。現地の子どものために、ノート、ボールペン、消しゴム、メモ用紙、手帳などをご持参いただけると、喜ばれると思います。

日 時：2020年1月13日（月）13:30～15:30 受付 13:15～
場 所：本部事務所 + Skype 中継
講 師：倉科茉季氏
募集人数：会議室先着 30名（公開） + Skype 利用（支部・会員に限る）15アカウントまで
参加費：1,000円（茶菓含む）／Skype 参加はアカウント1つにつき1,000円
申 込：Fax：03-3358-2889（本部事務所）／E-mail：j-cafe@jauw.org（Jカフェ専用）
Skype 参加希望は、上記メールアドレスへ
締 切：1月8日（水）ごろまで

【倉科さんから:お話のポイント】



2019年7月末より、ベナンで英語の先生として働くべく渡航しました。
『なんで英語の先生に？』『なんでベナン？』『てか、ベナンってどこ？』など、よく尋ねられる質問にお答えしつつ、この滞在4ヶ月で私が見たことや経験したことをご紹介します。ルームメートのベナン人の女の子クラリスとの爆笑生活話もあれば、ベナンが抱える負の側面についての真面目な話もします。

【プロフィール】

1988年 愛知県に生まれる。2012年 津田塾大学学芸学部国際関係学科卒業
2014年 同大学院英文学専攻コミュニケーション研究コース英語教育専攻修了
2014年～2019年 埼玉県・東京都中高一貫校で英語科非常勤講師
2019年7月31日より西アフリカのベナンに渡航
van Duyse Entrepreneurial Leadership Institute（通称、VELI “ベリ”）にメンターとして勤務

- ★ 生涯学習委員会では、JAUWの人材を活かす活動を企画中。他薦・自薦大歓迎！
- ・「災害の記憶をつなぐ」シリーズ（予告）：ジェンダーの視点から、災害に関する経験や提言を収集
- ・Jカフェ：「あの人にあの話を聞きたい」（経験談、趣味の紹介、専門知識など）
- ★ 生涯学習委員会Jカフェ専用メールアドレス：j-cafe@jauw.org



J カフェ通信 番外①

～ JAUW ヒューマンリソース活用プログラム ～
大学女性協会 生涯学習委員会 2020.2.10.発行

番外① 30歳！夢を叶えにベナンへ ～滞在4ヶ月で私が見たもの、聞いたこと～

講師：倉科 茉季

日時・場所：2020年1月13日（月）13:30～15:30 本部事務所 会議室

参加人数：30名（大学生2名、児童1名を含む）

30歳！夢を叶えにベナンへ ～滞在4ヶ月で私が見たもの、聞いたこと～

倉科 茉季



「発展途上で英語を教えたい。」

学生のとときに描いた夢を叶えに、2019年7月31日、西アフリカに位置するベナンという国に渡りました。

“ベナン”と聞くと、航空券を取るときの代理店の人ですら、

「“ベナン”…？あ～、“ペナン”ですね。」

「いえ、それはマレーシアの島ですね。西アフリカの“ベナン”です。」

と、“ベナン”という国が認識されなかったり、ベトナムに行ったことがある人なら、

「あ～、はいはい、“ダナン”ね。」

と、これまた“ベナン”の“ベ”という音すら認識されないということが多いです。そんな、日本人にとってはマイナー過ぎる小国ベナンで、私は現在英語の先生として働いています。

なぜベナンに渡ったかといいますと、本当にたまたまベナンで活動している日本人の方に色々相談をして、就活まで面倒を見ていただいたからです。日本と同じように、ベナンでは英語は外国語で、国民のほとんどは英語が通じません。それどころか、公用語のフランス語すら通じないことが多いです。そして私はフランス語が一ミリも話せません。おまけに発展途上国ゆえに、断水や停電もしょっちゅう起こり、マラリアや感染症の心配もあり（心配どころか、どちらも4ヶ月で経験済み）、電波状況も悪いので、電話をしても聞き取れないことがあったり、ゴミ山はすごいことになっているし、色々と非効率的で、よくまあ、こんな国にいるよなあと思いますが、そんな国に私は今舞い戻っています。

では、なぜ英語を教えたいと思ったかといいますと、学生のとときに国際関係学を学んでおり、グローバルイシューについて興味を持ちました。人やモノが国境を越えて行き来する現代世界において、グローバルイシューもまた、一国のみで片付けられる問題ではありません。我々の未来に立ちはだかるグローバルイシューを共に解決する人間を育てたい、そして、英語はその手段として学んでほしい、そのような思いで英語の先生になりました。

2018年に30歳になり、教員生活も5年となって、節目となりました。学生のとときに思い描いた夢を叶えるなら今しかない、と思って動き始めました。そして色々な準備期間を経て、2019年の7月にベナンに渡りました。

幸い、私は人には本当に恵まれていて、色んな人に助けられて今の生活があります。特に、今も一緒

に暮らしてくれているベナン人の女の子クラリスとの出会いには、感謝をしてもし切れません。私の就活から今の生活の全てを支えてくれています。

ベナンに渡って2ヶ月も経たないうちに、マラリアにかかりました。そして治ったと思ったらすぐに今度は感染症にかかりました。何れにしても軽症で、クラリスがすぐに病院に連れて行ってくれたので、薬で治療が出来ました。そして、給料の未払い事件もありました。私が今働いている学校は、実はクラリスが卒業した学校でもあるのですが、先進国の先生を雇うということが初めてで、恐らく「払わなくても大丈夫だろう。」と思われたのか、いつまでたっても給料が出ず、学校側と大バトルを繰り広げました。お金をもらわずに生活していけるわけがない、とこちらも必死で、最終的にはこちらが納得する金額をきちんともらえるようになりました。さて、一時帰国からベナンに帰ってきて、引き続ききちんとお給料をもらえるのか、乞うご期待です。

4ヶ月の滞在中に、クラリスとクラウドファンディングも行いました。ベナンには、経済的な理由で学校に通うことができない子どもが数え切れないほどいます。私も、ベナン滞在1ヶ月でクラリスからそれを聞いて、初めてその事実を知りました。実際にクラリスと、その子たちにインタビューをしに行きましたが、なんと自分の家から徒歩圏内にもすでに何人もの子どもたちが学校に行っていないことが分かったのです。ベナンでは、学校教育で公用語であるフランス語を学びます。ということは、学校に行っていない子どもは必然的にフランス語を話すことが出来ません。そうすると、当然将来の選択肢の幅は狭まり、それどころかお金を稼ぐ手段すら見つけられないこともあります。そんな現実を、私は自分の目で見て、自分の耳で知りました。そして、先生としてベナンにやってきた私は、そんな現実を見て何もしない自分ではいたくなかったのです。

クラリスもまた、教育に熱意と関心があり、ベナンだけでなくアフリカの教育問題に携わりたいと考えていました。たまたま出会った2人が、同じく教育に従事したいと考えているなんて、これは運命的な出会いといってもおかしくありません。クラリスという最強の味方がいるならば、この子たちの将来を切り開けるかもしれない。そう思って、色々調べたところ、クラウドファンディングをやってみようということになりました。

クラウドファンディングでお世話になったスタッフの方も本当に良い方で、停電や電波の悪さで何度も打ち合わせ中に中断したにもかかわらず、めげずに何度もコンタクトを取ってくださいました。そして1ヶ月で43万円を集めるという極めて厳しい条件の中、公開までこじつけてくださり、ドタバタの中、私たちのクラウドファンディングは幕を開けました。

しかし、蓋を開けてみれば、公開初日から立て続けに、1ヶ月間ほぼノンストップでご支援が入り、43万円はあっという間に達成しました。そして、その後もご支援が入り続け、最終的に61万5千円もの大金が入りました。今でもこの話を人にするときには涙が出ます。というのも、ベナン人から見れば億万長者に見える私たち日本人こそ、お金って出しづらいと思うのです。物価も税金も高いし、年金も払わなければならない、何かの支払いが滞るとあっという間に信用を失います。そんな日本人が、見たこともないベナンの子どもたちのために、そして赤の他人のクラリスと私のために大金を差し出してくださったからです。この感謝はどんな言葉でも伝えきれるものではありません。よく、海外に移住した人や海外生活が長い人の中には、海外と日本を比べて日本や日本人のことを悪く言う人もいますが、私は逆で、日本人とはこんなに素晴らしい民族だったのか、と思っています。そして、同じ日本人であることに心から誇りを持っています。

最後になりますが、お運びくださった皆様、そして当日まで全てに渡ってサポートしてくださった大学女性協会の皆様に心よりお礼を申し上げます。また、私事で恐縮ではございますが、私の晴れの舞台のために来てくれた父、母、祖母、姉にも、この場をお借りして感謝の気持ちを伝えたいと思います。

今後も、私にとってはチャレンジングなものばかり立ちはずかしく思いますが、いつか話のネタにし

てやろうと思って、どしんと構えて頑張ってます。



【プロフィール】

1988年 愛知県に生まれる。2012年 津田塾大学学芸学部国際関係学科卒業

2014年 同大学院英文学専攻コミュニケーション研究コース英語教育専攻修了

2014年～2019年 埼玉県・東京都中高一貫校で英語科非常勤講師

2019年7月31日より西アフリカのベナンに渡航

van Duyse Entrepreneurial Leadership Institute (通称、VELI ”ベリ”)にメンターとして勤務

◆ 報告

報告者 牧島 悠美子

年明け早々の1月13日に、Jカフェの番外編として「ベナン共和国」から一時帰国中の倉科茉季さんに、「30歳！夢を叶えにベナンへ～滞在4か月で私が見たもの、聞いたこと～」というタイトルでお話をお聞きした。

ベナンはアフリカ西部、ナイジェリアの西隣の、面積が日本の1/3の小さな国。人口も1148万人。東京の人口より少ない。公用語はフランス語。大学卒業後、埼玉県や東京の中高一貫校で英語科の非常勤講師を勤めた。あちらこちらで教えたのは種々の学校を経験したからとのこと。学生時代から発展途上国で英語を教えたいという夢があった。

参加者の半分ほどが若い女性。倉科さんの友人や教え子、親族の方々などもお見えになり、30人の老若男女が集う和気あいあいとした雰囲気の中で楽しいお話が繰り広げられた。ベナンで作った現地の生地が素敵だった。

自己紹介で、タイトルは30歳となっているが実はお誕生日を迎え、31歳になったとのこと。時々参加者へ質問をしながら、下記の内容で話が進んだ。

1. 「ベナン」とは？ : 7~9月は雨期で涼しいというよりは寒く、ダウンのコートが必要なくらい。スマホ、タブレット、PCは普及しており、日本の高齢者より電化製品を使いこなす。故障も直せる。
2. MAKIは何しにベナンへ？
3. なんで英語の先生に？
4. なんでベナンに？ : 偶然
5. 滞在4か月のご報告 : 色々あって、目的は果たせず、これからが本番
6. 今後の展望 : 識字率は上昇してきているが、今後の展望のない政府には頼れない。個人的にはやりたいことがいっぱい。現在のルームメイト26歳のクラリスを一度日本に連れてきたい。
7. 最後に : 1960年に独立し、治安も良いが平和ボケしているように見える。親のためでなく、自分の夢のために生き、自分の人生に責任を持つべき。

質疑応答から

- ・一夫多妻 経済力があるからそうなる訳ではない。シングルマザーは多いとのこと。

若く、夢があふれんばかりの倉科茉希さんでした。

【アンケートから】

- ・知らない国のお話を伺え、また意欲的なとり組みを教えてください、大変興味深く効かせて頂きました。(N. K.)
- ・貴重なお話、ありがとうございました。ベナンがどこにあるか知らなかったのですが、今日でたくさん学ぶことができました。私は、英語教育に加え、日本語教員課程も履修していますが、実際に海外で言語を教えることはあまり考えられませんでした。ですので、今日お話しを聞くことができ、同じ女子大出身の英語の先生（私はまだですが）の活躍に感動しました。またお話聞かせていただきたいです。(M. H.)
- ・問題意識をしっかりと持って取り組んでいらっしゃる、素晴らしいと思います。(K. H.)
- ・ベナンという国について初めて知ったこともあり、実際に行ってみたいと思うほど興味深かったです。英語の先生を目指したきっかけ、大学生の時から夢が、現在のベナンでの活躍につながっていて、倉科先生の行動力は凄いなとお話を聞いていて思いました。途中までの参加でしたが、貴重なお話を伺えてよかったです。(M. K.)
- ・とことん教育環境の整っていないところで、自分の指導力はどれくらい持ちこたえられるか、と考えたところがすごいと思いました。日本の教える環境では、何かもの足りなさを感じられたのでしょうか。（自分は教師をしていたとき、大学入試のための指導をしていたので、ジレンマがありました！）最後まで拝聴できず、残念ですが、ベナンに戻ってから元気に活躍ください！（N. T.）
- ・「こんな状況あっていいのか？」という、純粋な問いかけ、よかったです。クラリス、東京に来た時、泊められます。(Y. K.)
- ・大変勉強になりました。また感動しました。ありがとうございました。(H. T.)
- ・ご報告を楽しく伺いました。いろいろ経験されて豊かな人生になると思います。私のイギリスの大学の恩師がシオラレオーネやナイジェリアの学校で教えていた人で、イギリスの植民地にはイギリス人などが開発教育をしています。フランス政府はそういうことをしていないということがわかりました。(M. T.)
- ・全く知らなかったベナンのことをいろいろ教えていただきありがとうございました。とても勉強になりました。また、次回、続きのお話を聞きたいです。(Y. O.)

- ・30才で一人でベナンに渡り、貧しい子ども達を支援する。素晴らしい講演で感動しました！息子にも刺激になるお話が聞けて、私（母）も茉季さんの話を聞いて勇気をもらいました。ありがとうございました。（Y.A.）
- ・教育の力で社会を変える、ってこういうことなのかな、と思いました。（Y.K.）
- ・日本人が相手国の国民からなぜ尊敬され好感をもって受け入れられるかについて述べたことは、私が会社生活で得たことと全く同じです。i. e. 相手国国民の目線に合わせて接すること。／本日は娘のためにこのような機会を与えて下さり、また過分なコメントを頂だいし、心より御礼申し上げます。（K.K.）
- ・茉季ちゃんへ。涙が出そうなくらい感動しました。茉季ちゃんの行動力、教育への思い、パワーがベナンとのかけ橋になることを確信しました。これからはずっと活躍を応援しているね！／貴重な機会をありがとうございました。（W.K.）
- ・こんなに若くして、こんなに自立した確固たる考えを持ち、こんなに実行力のある女性に会うことはなかなかありませんので、ただただ感動しています。大学や社会でいままで培ってきた科学力をフルに活用して、これからも活躍してってください。私も、応援します。（K.S.）

【ベナン共和国情報】外務省サイト 他

1. 面積 112,622 平方キロメートル（日本の約 3 分の 1）
2. 人口 1,148 万人（2018 年, 世銀）
3. 首都 ポルトノボ（Porto-Novo）。倉科さんがいるところは、コクス。事実上の首都。
4. 民族 46 部族
5. 言語 フランス語（公用語）（倉科さんによると、公用語を理解する人は 3 割）
6. スラム教（27.7%）、カトリック（25.5%）、プロテスタント（13.5%）、ブドゥー教（11.6%）、その他キリスト教（9.5%）、その他伝統的宗教（2.6%）
7. 政体 共和制
8. 元首 パトリス・タロン（Patrice Athanase Guillaume TALON）大統領（任期 5 年, 次回選挙は 2021 年）
9. 主要産業 農業（綿花, パームオイル）、サービス業（港湾業）
10. 対日貿易 対日輸出 1.90 億円、対日輸入 10.42 億円。日本からの進出企業 1 社。
11. 一人当たり GNI 870 米ドル（2018 年, 世銀）
12. 日本の援助実績（2017 年度までの累積） 円借款 37.62 億円+無償資金協力 421.97 億円+技術協力 88.68 億円
13. 二国間関係 1960.8.1 ベナン独立と同時に同国を承認。2010.1, コトヌに在ベナン日本大使館を開館
14. 在留邦人 104 人（2017 年 10 月現在）／在日当該国人数 92 人（2018 年 6 月現在）（八村塁 NBA 選手の父、ゾマホン・ルフィン元外交官、タレント他）
15. （倉科さん情報）ベナンの国では、資源ごみの処理施設がなく、彼女の住んでいるコトヌではごみは海岸近くの場所に捨てられていて、割れたガラスの上を裸足で子供たちが歩き回っている、という実情が紹介され、プラスチックごみ問題が開発途上国では、先進国と違った形での問題になっている。
16. 2018 年参議院議員団（3 名）がナイジェリア連邦共和国、コートジボワール共和国、ベナン共和国、フランス共和国訪問。